



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月7日
東

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所
 コード番号 8114 URL <http://www.descente.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小関 秀一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 土橋 晃 (TEL) 03-5979-6110
 四半期報告書提出予定日 2022年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	57,210	14.6	4,895	80.4	6,740	68.3	5,132	106.3
2022年3月期第2四半期	49,926	16.4	2,714	—	4,005	—	2,487	—

(注) 包括利益2023年3月期第2四半期 11,065百万円(134.4%) 2022年3月期第2四半期 4,720百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	68.00	—
2022年3月期第2四半期	32.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	127,178	95,905	75.4
2022年3月期	116,375	86,658	74.5

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 95,905百万円 2022年3月期 86,658百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
2023年3月期	—	0.00			
2023年3月期(予想)			—	28.00	28.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	118,000	8.4	8,100	57.6	12,300	62.8	10,000	60.5	132.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

ARENA (SHANGHAI)
新規 1社 (社名) INDUSTRIAL CO., LTD. 、除外 1社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料の10ページ、「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	76,924,176株	2022年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	1,419,986株	2022年3月期	1,444,610株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	75,490,118株	2022年3月期2Q	75,466,371株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
3. 補足情報	12
海外売上高	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益において、過去最高益となりました。

デサントジャパン株式会社は、営業利益も含めた各利益項目において過去最高益となり、大きな利益貢献を果たしました。その主な要因は、第1四半期累計期間で達成した低水準の返品率・値引率の維持および、『アリーナ』を始めとする各ブランドの増収増益です。また、韓国では『アンブロ』の増収増益など、引き続きアスレチックカテゴリーが牽引しています。中国においては、4月以降のロックダウンがあったものの、事業の早期回復へ向けた取り組みによって、影響は軽微でした。その結果、当第2四半期連結累計期間における全セグメント売上高は前年同四半期比14.6%増の57,210百万円となりました。

売上総利益は増収に伴って増加し、販管費については、日本及び韓国共に賞与の増加に伴う人件費増や韓国での売上に連動する販売手数料などの変動費の増加があったため、前年同四半期比9.2%増の28,380百万円となりましたが、販管費率は前年同四半期比2.4%減少しました。それにより、営業利益は4,895百万円(前年同四半期比80.4%増)で、第1四半期累計期間に引き続き大幅な増益となりました。

また、韓国の持分法適用関連会社であるARENA KOREA LTD. および中国の持分法適用関連会社であるDESCENTE CHINA HOLDING LTD. (以下、DCH)の業績伸長により持分法による投資利益が増加したことで営業外収益が増加し、経常利益は前年同四半期比68.3%増の6,740百万円となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は57,210百万円(前年同四半期比14.6%増)、営業利益は4,895百万円(前年同四半期比80.4%増)、経常利益は6,740百万円(前年同四半期比68.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,132百万円(前年同四半期比106.3%増)となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。なお、主要な在外子会社の決算期は12月であり、各セグメントの業績には持分法適用関連会社の数値は含まれておりません。

(セグメント別売上高)

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) ※ (前年同四半期比)
日本	25,686 (114.8%)	3,205 (前年同四半期1,555百万円)
韓国	28,229 (114.1%)	1,999 (前年同四半期468百万円)
中国	2,205 (107.1%)	130 (前年同四半期235百万円)
その他	—	— (前年同四半期△0百万円)
調整額	1,088	△439 (前年同四半期455百万円)
合計	57,210 (114.6%)	4,895 (前年同四半期2,714百万円)

※ セグメント利益又は損失は、当社グループにおける営業利益又は損失であります。

(日本)

当第2四半期連結累計期間においては、円安の進行や第1四半期決算公表時に懸念していた新型コロナ感染再拡大の影響は軽微であり、引き続きDTC事業を中心とした各流通での売上が好調に推移したことで、売上高は25,686百万円(前年同四半期比14.8%増)の大幅増収となりました。ブランドでは、『デサント』において大谷翔平選手を起用した渋谷での屋外広告や「MIZUSAWA Tシャツ」が注目を集め、8月から開始した直営店や自社ECでの水沢ダウンの予約販売も好調に推移しております。『アリーナ』は中高生を対象とした大会での着用シェアが高まり、旗艦店を中心とした直営店でトップスイマー着用モデルの売上を伸ばしました。また、返品率・値引率も低い水準を維持できたことで、売上総利益も大幅に増えました。販管費は、人件費や売上増に伴う費用の増加などがあったものの売上高及び売上総利益の増加が販管費増を大きく上回り、当セグメント利益は3,205百万円(前年同四半期比106.1%増)となりました。発注量のコントロールおよび消化率が高まったことにより、棚卸資産は前年同四半期比で2,462百万円削減され、適正な水準に近づいております。以上のことから大幅な増収増益となり、日本セグメントとしては、過去最高益となりました。

(韓国)

韓国では、6月下旬に新型コロナ再流行の兆しがあったものの経済活動への影響は少なく、売上高は前年同四半期比で大幅に増加しました。引き続き『アンブロ』が前年同四半期比66%増と大きな伸長を見せ、売上・利益共に貢献するブランドに成長しました。増収の結果、セグメント利益も1,999百万円(前年同四半期比326.4%増)となりました。

(中国)

香港では、新型コロナウイルスによる厳しい規制が緩和され徐々に経済活動が再開された一方、4月以降には中国本土の上海市を中心に大規模なロックダウンが発生しました。約2か月間の店舗の営業停止や物流倉庫の閉鎖などがありましたが、6月のECイベントでの売上伸長等で影響を緩和することができました。また、第1四半期連結累計期間より子会社化したアリーナ上海有限公司を中国セグメントに加えております。結果としてセグメント売上高は前年同四半期比7.1%増の2,205百万円に増加しましたが、セグメント利益は前年同四半期比104百万円減となりました。なお、セグメント損益には含まれませんが、持分法適用関連会社であるDCHはロックダウンの影響を受けたものの、当第2四半期連結累計期間において、前年よりも業績が大きく伸長しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

(品目別売上高)

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
	百万円	%	%
アスレチックウェア及びその関連商品	35,738	62.5	116.1
ゴルフウェア及びその関連商品	17,815	31.1	113.1
アウトドアウェア及びその関連商品	2,568	4.5	97.3
調整額	1,088	1.9	143.5
合 計	57,210	100.0	114.6

(アスレチックウェア及びその関連商品)

『デサント』が引き続き日本・韓国・中国全てにおいて売上を牽引しています。また、『アリーナ』は日本と韓国において好調に推移、韓国における『アンブロ』も好調を維持しており、全体としてアスレチックウェアカテゴリーの売上高は前年同四半期比16.1%増の35,738百万円となりました。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

引き続きゴルフ人気は続いているものの、韓国においては新興ブランドの増加によって競争が激化しております。また、中国では上海など都市部のロックダウンの影響を受け、『マンシングウェア』が苦戦しました。一方、『デサント』は全エリアで増収、日本では『ランバン スポール』『スリクソン』も含め、すべてのゴルフブランドが増収となり、好調を維持しております。全体として、ゴルフウェアカテゴリーの売上高は前年同四半期比13.1%増の17,815百万円となりました。

(全社的な取り組み)

事業改革が順調に進んでいる日本においては、今後の更なるDTC事業拡大へ向けて、顧客満足度の向上や新規顧客の開拓など様々な取り組みを行っております。自社ECでは、パッケージでもお客様に楽しんでいただくために、期間限定でデザイン性のあるパッケージを制作しています。9月に発表となった日本パッケージデザイン大賞2023では、すごろくをデザインしたパッケージ「ホリデーSPECIAL BOX」が、美粧性やすごろくの中に様々なブランドを登場させるデザインが次の購買意欲につなげる販促効果を果たすと評価され、銀賞を受賞しました。人気アニメ『TIGER & BUNNY 2』とのコラボ商品の発売においては、納期遅延が起きてしまったものの、SNSで発信したお詫びメールが女性を中心とした新たなファンの心を掴み、SNS上で反響を呼ぶとともに、完売しました。

日本・韓国での共同マーケティングとして、『デサント』と高級車『マセラティ』によるコラボレーション商品を発売し、スーパースポーツカー「MC20」を彷彿とさせるアイテムが人気を博しました。

モノづくりにおいては、新たな挑戦として、『アリーナ』で動きやすさを追求したテープのない特殊なファスナーを採用したオールインワン水着を開発。ファスナー部分の強度とストレッチ性を両立させるため、競泳用トップモデルの生産で培った接着縫製技術をもつデサントアパレル株式会社の西都工場（宮崎県）で縫製しています。

SDGsを実現する取り組みとして、日本では契約アスリートが“Team DESCENTE”として活動しています。当第2四半期連結累計期間には、東洋英和女学院大学での「栗原恵（元バレーボール選手）さんとSDGsについて考える特別授業」や、水沼尚輝選手（競泳）と海洋ごみ問題を考える「海ごみゼロフェスティバルin芳賀町」を実施しました。DESCENTE KOREA LTD. はスポーツ振興活動を目的とした財団法人デサントスポーツ財団に対して、2013年の設立以降、後援金寄付を継続し、スポーツ振興を支援しています。デサントスポーツ財団は、児童・青少年の健康と体力増進のための「MOVE SPORT Campaign」を実施し、児童・青少年に対してはスポーツ教室を、指導者に対しては講習会を開催しました。また、スポーツに関する幅広い学術研究を扱う「2022年体育週間記念学術大会」において優

れた学術研究に助成金を拠出し、学術研究の支援も行っています。当社は今後もマテリアリティに基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを続けてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は127,178百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,802百万円増加致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ5,512百万円増加し、79,180百万円となりました。これは主に現金及び預金の増加2,408百万円、受取手形及び売掛金の増加2,309百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ5,290百万円増加し、47,998百万円となりました。これは主に投資その他の資産に含まれる投資有価証券の増加3,502百万円などによるものです。

負債合計は前連結会計年度末に比べ1,555百万円増加し、31,272百万円となりました。これは主に固定負債のその他に含まれるリース債務の増加2,507百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ9,247百万円増加し、95,905百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加3,245百万円、為替換算調整勘定の増加5,907百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末と比べ、0.9%増の75.4%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ4,855百万円減少し、27,902百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、4,710百万円の収入超過（前第2四半期連結累計期間は4,924百万円の収入超過）となりました。これは主な増加要因として、税金等調整前四半期純利益6,867百万円などがありましたが、売上債権の増加額1,629百万円、仕入債務の減少額1,329百万円などの減少要因があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、7,338百万円の支出超過（前第2四半期連結累計期間は579百万円の支出超過）となりました。これは定期預金の増加額6,730百万円によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、3,026百万円の支出超過（前第2四半期連結累計期間は2,058百万円の支出超過）となりました。これは配当金の支払額1,886百万円、リース債務の返済による支出1,139百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間までの状況及び今後の見通し等を勘案した結果、2022年8月8日に公表した業績予想値の修正をしております。詳しくは本日開示いたしました「2023年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	35,113	37,522
受取手形及び売掛金	15,028	17,338
商品及び製品	19,093	19,667
仕掛品	159	240
原材料及び貯蔵品	533	532
その他	3,796	3,944
貸倒引当金	△56	△64
流動資産合計	73,667	79,180
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,005	9,253
その他	12,919	14,966
有形固定資産合計	21,925	24,219
無形固定資産		
1,822	1,822	1,688
投資その他の資産		
投資有価証券	13,645	17,147
退職給付に係る資産	69	—
その他	5,293	4,986
貸倒引当金	△48	△44
投資その他の資産合計	18,960	22,090
固定資産合計	42,708	47,998
資産合計	116,375	127,178
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,249	12,057
未払法人税等	546	1,125
賞与引当金	1,477	1,032
その他	11,235	10,036
流動負債合計	25,508	24,252
固定負債		
退職給付に係る負債	—	220
その他	4,208	6,800
固定負債合計	4,208	7,020
負債合計	29,716	31,272

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,377	25,436
利益剰余金	53,594	56,840
自己株式	△615	△605
株主資本合計	82,202	85,516
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	289	294
繰延ヘッジ損益	△5	58
為替換算調整勘定	3,637	9,545
退職給付に係る調整累計額	535	491
その他の包括利益累計額合計	4,456	10,389
純資産合計	86,658	95,905
負債純資産合計	116,375	127,178

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	49,926	57,210
売上原価	21,230	23,934
売上総利益	28,696	33,275
販売費及び一般管理費	25,981	28,380
営業利益	2,714	4,895
営業外収益		
受取利息	86	139
受取配当金	52	76
持分法による投資利益	1,289	1,560
為替差益	—	49
その他	45	77
営業外収益合計	1,475	1,902
営業外費用		
支払利息	33	29
固定資産除却損	36	13
為替差損	47	—
その他	66	14
営業外費用合計	183	58
経常利益	4,005	6,740
特別利益		
事業譲渡益	50	—
段階取得に係る差益	—	92
負ののれん発生益	—	35
特別利益合計	50	127
特別損失		
減損損失	62	—
特別損失合計	62	—
税金等調整前四半期純利益	3,992	6,867
法人税、住民税及び事業税	532	1,274
法人税等調整額	972	460
法人税等合計	1,504	1,734
四半期純利益	2,487	5,132
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,487	5,132

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	2,487	5,132
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	5
繰延ヘッジ損益	15	63
為替換算調整勘定	1,146	4,136
退職給付に係る調整額	△41	△43
持分法適用会社に対する持分相当額	1,088	1,771
その他の包括利益合計	2,232	5,932
四半期包括利益	4,720	11,065
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,720	11,065

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,992	6,867
減価償却費	2,249	2,176
減損損失	62	—
持分法による投資損益 (△は益)	△1,289	△1,560
負ののれん発生益	—	△35
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△92
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△11	△0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	28	△445
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	110	190
受取利息及び受取配当金	△139	△215
支払利息	33	29
売上債権の増減額 (△は増加)	1,650	△1,629
棚卸資産の増減額 (△は増加)	1,868	1,592
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,327	△1,329
事業譲渡損益 (△は益)	△50	—
その他	522	△821
小計	7,701	4,726
利息及び配当金の受取額	139	660
利息の支払額	△33	△29
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,591	△646
特別退職金の支払額	△1,290	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,924	4,710
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	400	△6,730
有形固定資産の取得による支出	△635	△324
無形固定資産の取得による支出	△139	△201
投資有価証券の取得による支出	△3	△4
事業譲渡による収入	297	—
差入保証金の回収による収入	95	245
差入保証金の差入による支出	△705	△108
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△325
その他	112	112
投資活動によるキャッシュ・フロー	△579	△7,338
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,000	—
配当金の支払額	—	△1,886
自己株式の取得による支出	△1	△0
リース債務の返済による支出	△1,057	△1,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,058	△3,026
現金及び現金同等物に係る換算差額	349	800
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,636	△4,855
現金及び現金同等物の期首残高	19,244	32,757
現金及び現金同等物の四半期末残高	21,880	27,902

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1, 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	日本	韓国	中国	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	22,376	24,731	2,060	—	49,168	758	49,926
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,657	218	24	—	2,900	△2,900	—
計	25,034	24,949	2,084	—	52,068	△2,141	49,926
セグメント利益又は損失	1,555	468	235	△0	2,259	455	2,714
その他の項目							
持分法による投資損益	—	△55	1,368	—	1,312	△22	1,289
持分法適用会社への投資額	—	150	11,835	—	11,986	—	11,986

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額は、純粋持株会社である当社で計上したものであります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去、棚卸資産の未実現利益の調整額、及び各報告セグメントに配分していない当社の損益であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1, 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	日本	韓国	中国	その他	計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,686	28,229	2,205	—	56,121	1,088	57,210
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,666	523	22	—	3,212	△3,212	—
計	28,353	28,752	2,227	—	59,334	△2,124	57,210
セグメント利益	3,205	1,999	130	—	5,335	△439	4,895
その他の項目							
持分法による投資損益	—	134	1,465	—	1,599	△39	1,560
持分法適用会社への投資額	—	172	17,086	—	17,259	—	17,259

(注) 1 外部顧客への売上高の調整額は、純粋持株会社である当社で計上したものであります。

2 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去、棚卸資産の未実現利益の調整額、及び各報告セグメントに配分していない当社の損益であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結累計期間より、「日本」に含めておりました当社について、2022年4月より純粋持株会社体制へ移行したため、「調整額」に含めて記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 補足情報

海外売上高

前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

(単位:百万円、%)

	韓国	中国	その他	計
I 海外売上高	23,835	3,983	528	28,347
II 連結売上高				49,926
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	47.7	8.0	1.1	56.8

当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:百万円、%)

	韓国	中国	その他	計
I 海外売上高	26,969	5,044	1,264	33,278
II 連結売上高				57,210
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	47.1	8.8	2.2	58.2

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。